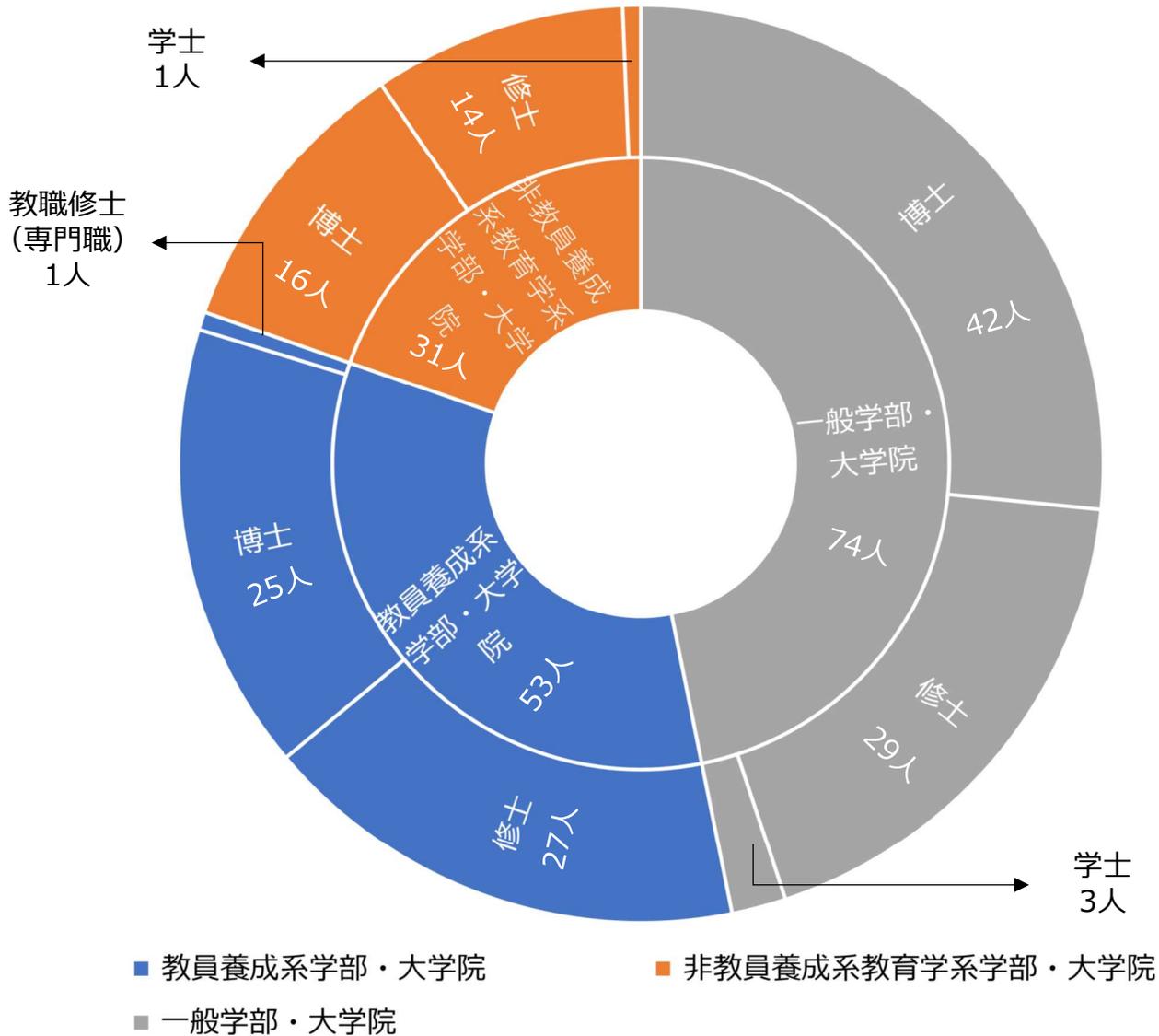


教員養成大学の教員組織、採用、研修等 （兵庫教育大学の例）

【兵庫教育大学】

兵庫教育大学 教員構成（専任教員）



	博士	教職修士 (専門職)	修士	学士	合計
教員養成系学部・大学院	25人 (47.2%)	1人 (1.9%)	27人 (50.9%)	0人 (0.0%)	53人 (33.5%)
非教員養成系 教育学系学部・大学院	16人 (51.6%)	0人 (0.0%)	14人 (45.2%)	1人 (3.2%)	31人 (19.6%)
一般学部・大学院	42人 (56.8%)	0人 (0.0%)	29人 (39.2%)	3人 (4.1%)	74人 (46.8%)

※合計以外：博士・教職修士（専門職）・修士・学士の合計を100%とした場合の割合
 合計：教員養成系・非教員養成系・一般学部の合計を100%とした場合の割合

兵庫教育大学教員の採用・研修について

①教員の選考規定について

○公募方法

(1) 国立研究開発法人科学技術振興機構の開設する JREC-IN (Japan REsearch Career Information Network) の Web ページ及び本学 Web ページへの求人公募情報を掲載することにより実施している。

(2) 採用等に係る教員の選考方法

(3) 審査基準

- ・学 位
- ・研究能力
- ・教育活動・業績等
- ・研究者教員・実務家教員の別
- ・職位（教授・准教授・講師）
- ・実務経験

（教授・准教授・講師）

学校現場及び教育隣接分野の関係機関において、1年以上の実務経験を有することを条件としている。

（助教）

学校現場及び教育隣接分野の関係機関において1年以上の実務経験を有することを条件とし、1年以上の実務経験がない場合には、採用後、本学附属学校園、発達心理臨床研究センター、神戸ハーバーランドキャンパス臨床心理相談室等、及び教育隣接分野（福祉、医療、司法等を含む）の関係機関において、一定期間にわたり研修に従事することを条件としている。

②ファカルティ・ディベロップメント（FD）

FD推進委員会を中心に、カリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、また学生の参画も得て、教育の質保証を目指すための取組を行っている。（FD推進活動の取組みは別紙③「兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み」参照）

<主なFD活動>

・授業評価と評価方法改善

(学部・大学院(修士課程・専門職学位課程)全ての授業について学生による授業評価を実施し、評価結果は授業担当者へフィードバックするとともに学内HPで公開している。)

・ベストクラスの選定・公表

(教職員・学生で構成する「FD活動交流会」でベストクラスの候補を選定し、授業担当教員、受講生へのインタビューを経て、FD推進委員会で決定している。)

※優れた授業は教員だけでなく参加する全ての構成員の高い意識があってはじめて成立するという考え方のもと「ベストクラス」を創設している。

・授業公開

(ベストクラスに選定された授業を公開し、教員相互の授業研究の場とし、大学全体の授業改善を推進している。)

・アクティブ・ラーニング研究会

(昨年度は反転授業の研修を、一昨年度はPBLの研修を実施した。)

・FD活動交流会

(教職員と学生が直接対話をしながらFD活動を推進している。昨年度はベストクラスの選定と学生による授業評価項目に関する検証を行った。)

③教員の採用・研修等に関する大学独自の取り組み

(採用等に関する取り組み)

- ・採用条件にも示しているが、理論と実践の両面を踏まえた教員の養成を目指している。このため、実践面の経験が不足している教員については、附属学校園等において、実務経験研修を課すこととしている。
- ・教育研究の実践性を恒常的に確保するために、教育委員会や文部科学省との人事交流を積極的に行っている。
- ・修士課程から教職大学院へ移行する教員に対して、本学の定める基準により教員審査を実施し、教職大学院担当の可否を審査した。

(研修に関する取り組み)

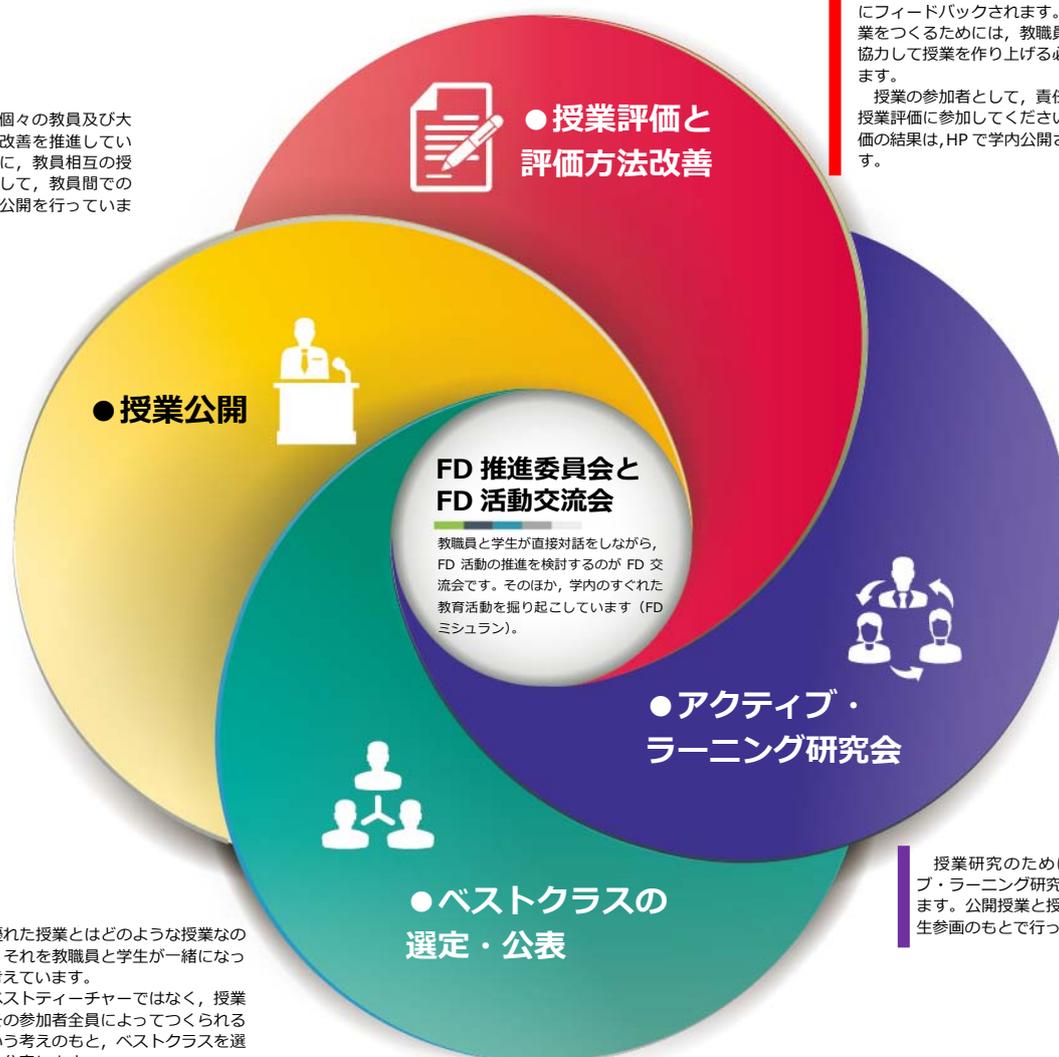
- ・修士課程から教職大学院へ移行する教員向けに「教職大学院の手引き(教員向けマニュアル)」を作成し、対象教員を集めて研修を実施した。
- ・教職大学院では、独自に「授業改善・FD委員会」を設置しており、「授業評価」「内的FD」「外的FD」「その他」の4つの領域を設け、年度当初に授業改善・FD活動に関する計画を立て、翌年度当初に実績評価を実施している(別紙④「平成30年度 授業改善・FD委員会 活動計画と実績評価」参照)。
- ・FD推進委員会による研修のみではなく、教員養成大学の教員としてのライフステージをふまえた体系的な人材育成の取り組みを計画している。

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



前期末および後期末に全ての授業で授業評価を行っています。評価結果は10～11月(前期)と4～5月(後期)にフィードバックされます。優れた授業をつくるためには、教職員と学生が協力して授業を作り上げる必要があります。

授業の参加者として、責任を持って授業評価に参加してください。授業評価の結果は、HP で学内公開されています。

優れた授業とはどのような授業なのか。それを教職員と学生が一緒になって考えています。

ベストティーチャーではなく、授業はその参加者全員によってつくられるという考えのもと、ベストクラスを選定し公表します。

授業研究のために、アクティブ・ラーニング研究会を行っています。公開授業と授業研究会を学生参画のもとで行っています。

別紙④

平成30年度 授業改善・FD委員会 活動計画と実績評価

領域	項目	活動計画	実績評価
授業評価	「実習科目」に対する授業評価の実施	・各実習科目について、学生ならびに実習校を対象とした評価アンケートを作成して実施する。なお、具体的な評価項目は、これまでのものをふまえて作成する。また、質問紙の発送や結果の集計等の手続きを外注することも検討する。	・実習校に対しては、連携協力校連絡協議会やコースでの聞き取りによって評価を収集した。 ・学生に対しては、Google Form を利用して調査を実施した。具体的な項目については、これまでの10項目に加えて、受講者自身の取組姿勢を振り返る意味から、マークシート「授業の評価について」の⑩～⑫などの項目を参考に3項目を新たに作成した。
	「授業評価結果学生対象説明会」の実施	・説明会を企画・実施して、授業評価結果とその改善方策を学生に提示する。 ・今年度の実施について検討する。実施する場合、「共通基礎科目」「専門科目」の評価結果をどのように集計するかなどの検討が必要になる。	・4/9に実施した。 ・今年度は、これまでのような全体での説明会は実施せず、年度末にコース別で実施した。共通基礎科目については、授業担当者がその場にいらなくても、そこで聞き取りを行い、授業改善・FD委員会で共有することで授業担当者に意見等が届くようにした。
内的FD	FD研修会の実施	・専攻会議等においてFD活動への取組状況を共有する。 ・例年、後期開始時にFD研修会を実施して、前期の授業評価結果を共有していた。今年度も継続して実施するなら、「共通基礎科目」と「専門科目」の結果の集計手続きに関する検討が必要になる。	・今年度はすでに一度実施済み（4/2；第1回専攻会議終了後実施）。 ・1月の教育実践高度化専攻会議において授業評価システムの変更に伴う課題等について意見を求め、2月の授業改善・FD委員会にてそれを検討した。
	FD推進委員会主催研究会等への参加	・FD推進委員会が主催するアクティブ・ラーニング研究会、授業公開等への参加を促進する。	・第11回AL研究会（開催日：1/17；講師：森朋子関西大学教授）に多くの教職大学院教員が参加した。
	「教員養成スタンダード（大学院）」の活用	・「教員養成スタンダード」の有効活用に向けた検討を行う。たとえば、Live Campusとの連携は可能か。	・Live Campusとの連動によってビッグデータ化することで、IR活動と連携した展開を図ることが可能になるなどの提案を含め、今後も検討が必要であることを確認した。
外的FD	授業公開の実施	・「教職大学院公開授業」等を通して、学外への授業やゼミの公開を図る。また、学外者の授業参観・視察等を促進する。	・5/12と10/6の2回実施した。なお、今年度から「教職大学院公開授業」に関する情報をウェブサイトに公開した。
	実習校等との意見交換の実施	・連携協力校連絡協議会等において、実習校等と意見交換を行う。	・3/9に実施した。
	外部評価委員会の実施	・外部評価委員会を実施し、教育の質保証に向けた意見を収集する。	・3/9に実施した。
その他	教職大学院の拡充に伴う検討課題の抽出	・教職大学院の拡充に伴い本委員会が検討しておくべき課題等について議論し論点を整理する。	・授業改善・FD委員会において、その都度、意見交換を行い、今後の検討の必要性を確認した。